

日本英語教育学会・日本教育言語学会第53回年次研究集会 2023 年3月5日

～～複数言語連携学習～～

進む学習者！出遅れる教材！どうする教育？：統合的言語能力の動的生成・ランゲージングをめぐって
パラレルセッション

日中英三言語連携対照型学習教材アプリ

～統合的言語能力の動的生成・ランゲージング、自律的言語学習の促進を目指して～

湯山トミ子 東京都立大学

【日中英三言語対照連携型学習システム】

【開発目標】 日本語母語話者のための日中英三言語対照学習教材搭載学習アプリ

【構築法】 対照学習による連携型多言語システム

- ・ 言語現象、言語構造に対する理解力を増進 対照学習⇒個別の言語学習では得難い言語表現の共通点、類似点（普遍性）、相違点（個別性、多様性）

対照学習教材：現行の対照教材は二言語が基本

三言語以上の同時対照学習法システム、同族非同族、言語類型等の枠を越える教材は固有

二言語による成果をさらに発展させ、統合して三言語対照の教材作成
開拓性が高い課題

- ・ 音声学習の身体化による言語主体の形成（言語活動主体としての意識形成）

【システムの基本性格】

(目的) **認知基盤の構築**：実践的運用力の向上を目指す実践的練習を提供する運用力重点学習型ではなく、対照分析により言語構造の特色、言語間の影響関係について理解し、それにより中国語の発展学習、英語の再学習を効果的、効率的に進める基盤作りを目指す

(特徴) **ミニマム型**：日中英は、言語類型、言語系列の異なる異相性の大きな言語対照学習の構成項目の絞り込みにより最小不可欠な要件により構成する

(形態) **モジュール型**：課型に配列、どこからでも使用できる

(学習対象) 大学教養課程中国語初級修了者の初中級学習、英語基礎学習の補助

(利用法) 授業利用、公開による一般利用、自習利用

【構成】 **音声学習（発音の学習）** と **文法学習（表現の学習）** の二項目

テキスト（課文） 単語 解説（個別解説、三言語対照）、関連情報、コラム

【目指す効果と特色】

・「発音の学習」:異なる発音、類似する発音を習得する＝微細な発音器官の使用＝技能的発音力の獲得

発音練習＝発音器官の意識的、繊細な制御力を獲得する行動＝身体トレーニング

身体コントロール⇒身体を使用する自己の創造(生成)＝言語活動する主体としての自己

*ジョルジヨ・アガンペン『身体の使用—脱構成的可能体の理論のために』（上村忠男訳、みすず書房、東京、2016） 「自己の使用と自己の身体の組成についての感覚」、「自分を使用するものとして再構成する」⇒身体を使用する者（主体）としての自己認知（「クレーシス」「自己の使用」「世界の使用」）

・「表現の学習」:文法項目(三言語の異相性・共通性)の思考基盤の理解

慣用表現(三言語の異相性・共通性)の習俗、文化的特徴への理解

⇒文法現象から人間の活動への思考を拓く

二言語対比、対峙より相対化して人間の営みとしての広がりから俯瞰

ex 使役者の抵抗感の有無:迷惑受身の有無等 文法学習

⇒人間の営みとしての使役行為・受け身行為のもつ意味を思考する

⇒慣用表現の日中英の類似性、相違性の特徴から人間にとっての意味を考える

文化的な相違性、共通性から人間世界、社会の在り方を俯瞰する

ex 姓と名前の表現から意味、役割、年齢・世代・男女性

【発音の学習】：姿、形は小さく、役割は重く

役割⇒音声を重視する文法学習（「表現の学習」）の基盤

中英音声学習の負荷の軽減、良好な学習基盤づくり

音声学習：言語学習としての重要性+中国語・英語学習離れの要因

形態⇒発音学習に特化、発音基礎に欠かせない最低限度の要件の絞り込み
最小限の発音学習を行うミニマム型システム（ポイント攻略型）

リスニング学習は、発音学習を基礎に発展的に展開する課題

⇒「表現の学習」（文法学習）は発音・リスニングの学習教材

期待される効果と意義⇒**技能的発音能力、メタ言語意識の獲得**
自律的言語活動の主体としての身体性と意識の形成

*発音学習：電子情報通信学会2022.3.18「言語と思考研究会」報告「言語能力に着目した外国語学習の考察－日本語母語話者のための中英連携発音再学習の攻略－」（湯山トミ子・神田明延・藤本かおる・篠塚麻衣子・武田紀子）電子情報通信学会技術研究報告(Web)（IEICE Technical Report (Web)、巻：121号：440(TL2021 32-46) ページ：68-73 (WEB ONLY) 発行年：2022年3月6日

【発音教材の特徴・構成】

・**特徴**: 煩雑な日中英**三言語の特徴の複層的な絡み合い**、母語日本語をベースに、中英の特徴を加えて、三言語を対照化
文字と音声の関係、韻律による**音声の流れを重視し、基本発音を学ぶ**

・**構成**: 1 教材紹介

2 学習の手引き

3 **文字と音声**: 言語学習の基盤;**文字と音声の関係性の構造的理解** (関係性の有無、一対一、ずれ等)

4 **韻律**: アクセント・リズム・イントネーション;**高低・強弱・緩急による音声の流れ、言語の固有性、視覚化**

5 **学習準備 筋トレ(口と舌)**: **発音学習の身体化のためのプレトレーニング**

6 **基本発音**: 母語にない音声、類似する音声、英中に共通する音声、変音 (中・英)
意識的、分析的に言語を発音する能力、技能的な発音能力の養成

⇒ 調音様式の構造的理解、身体トレーニングにより **調音器官を意識的に、微細に動かせる筋肉 (舌筋、口筋など)、動かす司令 (神経) を養う。**

7 **発音学習からリスニング学習へ**

基本教材をソースとして、**文字の音声化、音声の文字化により振り返り学習のポイントの提示**

【「表現の学習」(文法学習)の構成と教材プラン】

(1) 「表現の学習」の構成要素 トピック型教材

①文法項目:日本語母語話者の習得負荷が高い中英の文法課題(三言語の異相性の大きな要)を選択
ex「主語の省略」、「代名詞の使用」、「使役と受身」など

②慣用表現:よく使われる表現の対照化、慣用的な表現の内に文化の違いも学ぶ
ex「自己紹介」(名前、身分、職業、出身地、年齢、身体の言い方など)

(2) 作成上の課題と主題

①文法項目:二言語(日英・中日)の比較をベースに三言語対照論に展開、発展

②慣用表現:定型表現、定番文型、言い回しなどをめぐる用法の特徴、ルール

言語文化固有の表現と言語の壁を越えたマクロな視点からの構築をはかる

*文法学習:「日本語母語話者のための中英連携学習システムの構築:教材作成プランとシステム的设计について」(湯山トミ子ほか4名、日本英語教育学会・日本教育言語学会第52回年次研究集会2022.2.26)での発表資料公開

題目：“語ろう！ 私のこと、社会のこと、日本のこと、世界のこと”（仮題）

（試作案）：三部構成 9単元 トピック題材・文法学習・表現学習(三言語の相違の要)

1 語ろう！ 私のこと・家族のこと・暮らしのルーティンあれこれ

- 1) 自己紹介（名前、身分、職業、出身地、年齢、身体）
- 2) 家族紹介（家族構成、家族紹介） 受身と所有
- 3) 生活紹介（暮らし、活動の紹介、毎日、一週間のタイムスケジュール） **日常生活の動作、動作量、時間の言い方の三言語比較**

2 語ろう！好きなこと、楽しいこと、繋がろうネットワークの絆あれこれ

- 1) 芸術・スポーツ：美術、音楽、演劇、各種スポーツ **動詞目的語の組合せ 動詞の用法の三言語対照学習**
- 2) 料理 食文化（料理一般）：食習慣の特徴、違い、料理に関する表現の対照比較。
単語力増強（動植物の名称） **形容詞、形容詞用法の表現**
- 3) 交通・通信: 交通に関する名称、表現、道の聞き方など **方向、方角の三言語対照比較**
通信（手紙・郵送・IT関連） アドレスの表示法などの表現比較

3 語ろう！ 日本のこと、世界のこと、地球のこと **現代的課題などについて、自己の考えを述べる基礎作り**

- 1) 自然現象（日本の天気、気候）：天気、気候などに関する表現の対照比較
環境問題、気候変動、温暖化など（短文）
- 2) 医療と病気：身体名称、病気・医療の表現 **身体表現の三言語対照比較**
パンデミック（短文）
- 3) 地球の住人、明日の世界（短文） 人類・動植物・世界地理など * **地理表現、空間表現の対照比較**など